

テンプス

2012年（平成24年）48号



弁財天宮殿



行基堂



三重塔



本堂

もくじ

江戸時代文化8年の水間寺本堂再建

平成23年度貝塚市郷土資料展示室特別展のお知らせ
「水間寺の歴史と寺宝」

古絵図をひも解く

水間寺境内絵図（水間寺所蔵）

平成23年度の埋蔵文化財調査

願泉寺境内の発掘調査

文化財防火デー消防訓練



護摩堂

※表紙の写真は水間寺境内にある貝塚市指定文化財の建造物です。

江戸時代文化8年の水間寺本堂再建

貝塚市水間にある龍谷山水間寺は、奈良時代天平16年（744年）に聖武天皇（しょうむてんのう）の勅命を受けた行基（ぎょうき）によって創建された寺院で、古くから厄除け観音「水間観音」として広く知られています。水間の名前の通り、近木川（こぎがわ）（蕎原川（そぶらがわ））とその支流である稲谷川の合流地点周辺に広大な境内地が広がっています。

現在の水間寺本堂（貝塚市指定文化財）は、平面が約23メートル四方にもおよぶ大阪府下でも最大級の本堂建築です。江戸時代文化8年（1811年）に再建されたもので、昨年平成23年で再建後200年を迎えました。

文化8年以前の本堂は、天正13年（1585年）3月の羽柴秀吉（のちの豊臣秀吉）による紀州攻めによる焼失後、文禄元年（1592年）3月に岸和田藩主小出秀政（こいでひでまさ）が再建したものと伝えられています。その姿は元禄7年（1694年）の水間寺境内絵図（4、5頁参照）で確認できるのみです。しかし、この本堂は天明4年（1784年）の火災によって再び焼失しました。

天明4年（1784年）10月20日の早朝、本堂より出火し食堂（じきどう）や三重塔に類焼する火災が起きました。畠中・神前（こうざき）村の庄屋で岸和田藩の七人庄屋をつとめた要（かなめ）家の「日記」天明4年（1784年）10月20日条には、「今暁七ツ時分（＝午前4時ごろ）水間寺出火、本堂より出、食堂・塔迄焼失、観音院斗（ばかり）残り申候事」と当時の様子が記されています。



『和泉名所図会』第三巻 和泉郡・泉南郡 所収「水間寺図」 寛政8（1796）年

天明4年（1784年）の本堂焼失から文化8年（1811年）の再建までの期間に刊行された『和泉名所図会』には、「本堂跡」として建物がない様子が描かれています。

当時の岸和田藩主岡部長備（おかべながとも）はこの水間寺の火災を大いに嘆き、息子長慎（ながちか）とともに二代にわたってその再建に尽力しました。再建にあたっては、巨額の寄付金が集められたことが当時の記録からうかがえます。

こうした結果、およそ30年後の文化8年（1811年）に本堂が再建されました。現在、水間寺には同年3月26日付の棟札2枚と「金堂上梁之槌」と書かれた木槌1点が残されています。棟札のうち1枚には、観音院の僧侶や水間村の庄屋、水間寺の寺僧らのほか、本堂再建に関わった多くの人々の名前が記されています。「再建掛」（さいけんがかり）として岸和田藩の勘定奉行や地方役、また「勸化掛」（かんげがかり）として藩領内の有力な庄屋、「工匠棟梁」（こうしょうとうりょう）や「木挽」（こびき）・「日雇」（ひやとい）を含めると計60名の名前が確認でき、当時の岸和田藩をあげての再建事業であったことがわかります。



本堂再建棟札（部分）

その後、文政年間（1818～31年）には三重塔（貝塚市指定文化財）も再建されました。この時期に再建された本堂や三重塔は、現在も水間寺の境内伽藍を構成する中心的な建造物となっています。

平成23年度貝塚市郷土資料展示室特別展のお知らせ

「水間寺の歴史と寺宝」

現在、貝塚市郷土資料展示室では、上記特別展を開催しています。本展では、水間寺が所蔵する宝物を中心に、今回紹介している文化8年（1811年）の本堂再建に関する資料も紹介しています。ぜひこの機会にご観覧ください。

会 期：平成24年2月4日（土）～3月25日（日）

会 場：貝塚市郷土資料展示室（貝塚市民図書館2階）

開室時間：午前9時30分～午後5時

観 覧 料：無料

休 室 日：毎火曜日、3月21日（水）

古絵図をひも解く

◆水間寺境内絵図（水間寺所蔵）

この絵図は、元禄7年（1694年）6月15日に作成された水間寺の境内（山林部分を含む）を描いたものです。岸和田藩主の代々から水間村観音院・庄屋・寺僧に宛てて出された『泉州岸和田領南郡龍谷山水間寺境内并山林之事』によると、元禄7年当時の藩主長泰（ながやす）は境目があいまいだった「東山」「寺僧居屋敷」「西山之内大久保谷松葉谷之田畑」を調査させ、絵図に書き記したとあります。この絵図を詳しく見ていくと、多くの朱色の線が引かれており、境目や基準線を表していることがわかります。そして朱色の文字で場所の名前を記しています。また、調査地も絵図にはっきりと描かれています。これらの様子から藩主長泰の命で作成された絵図と内容的に一致することがわかります。

◆絵図の中央 近木川（こぎがわ）（蕎原川（そぶらがわ））と柵谷川（きびたにがわ）とに挟まれた部分が水間寺境内の中心であり、通天橋（つうてんばし）と厄除橋（やくよけばし）、二つの橋の右手には「塔」（＝三重塔）「説法石」「食堂（じきどう）」「金堂」（＝本堂）「鐘撞堂（かねつきどう）」「鎮守権現（ちんじゅごんげん）」「拝殿」が描かれています。また、橋の左手には「護摩堂（ごまどう）」「観音院」「愛染明王（あいぜんみょうおう）」（＝愛染堂）、少し離れて「地藏院」「梅宮」が描かれています。



◆**絵図の上部** 梶谷川の西岸一帯は「西山」と呼ばれており、現在の水間公園を含む広がり水間寺の所持する「山林」と位置付けられていました。山の中腹には「三池」「大久保谷池」「松葉谷池」やそれに付随する「田」のほか「経岡八大竜王（きょうおかはちだいらゅうおう）」の社が描かれています。麓には「瀧大明神」「薬師院」「行基堂」「弁財天」など現存する堂舎が立ち並んでいます。



◆**絵図の下部** 近木川（蕎原川）の北東岸一帯は「東山」と呼ばれており、現在の水間共同墓地から、かつての木積村の境までが「西山」同様、水間寺の所持する「山林」でした。麓には「大門」「高札場」「八大金剛童子」「東光院」「東福院」など、今では見ることのできない建物などが描かれています。

このように、当時の絵図からは水間寺の境内・山林の広がりを確認することができるのと同時に、多くの堂塔を合わせて水間寺という大寺院を形作っていたことがわかります。今なお多くの参詣者を集める水間寺は、泉州の名所を一冊にまとめた江戸時代の観光ガイドブックともいえる『和泉名所図会』にも取り上げられる有名な寺院として、賑わいを見せていたことでしょう。

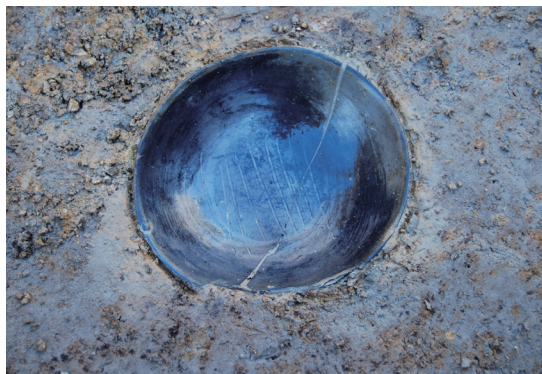
平成 23 年度の埋蔵文化財調査

平成 23 年度の発掘調査は、平成 24 年 1 月現在、遺跡内の確認・発掘調査を 15 件、遺跡範囲外の試掘調査を 6 件実施しました。今年度は宅地造成や住宅建築件数が減少しており、昨年度の同時期(17 件)と比べると 4 件の増加にとどまっています。

王子遺跡の調査では、自然流路からサヌカイトという石で作った石器の破片を発見しました。新井・鳥羽遺跡の調査では、土坑(穴)の中から、中世の瓦器碗(がきわん、瓦のような黒く光沢のある焼き物)がほぼ完形の状態で 1 点出土しました。貝塚寺内町遺跡の調査では、江戸時代頃の備前焼の甕を発見しました。右下の写真は破片をつなぎ合わせているところです。残念ながら底の部分から高さ 60cm くらいまで復元するのがやっとでした。昨年度に続き願泉寺境内の調査を 2 回実施しており、土坑、堀の発見(願泉寺境内の発掘調査)が大きな成果です。また、その他の遺跡調査では、瓦器、土師器(はじき)などの遺物が出土していますが、遺構は確認できませんでした。遺跡範囲外の試掘調査では、遺物の出土もなく、遺構などを発見することはできませんでした。



石器の破片(王子遺跡)



新井・鳥羽遺跡から出土した瓦器碗



備前焼の甕復元の様子(貝塚寺内町遺跡)

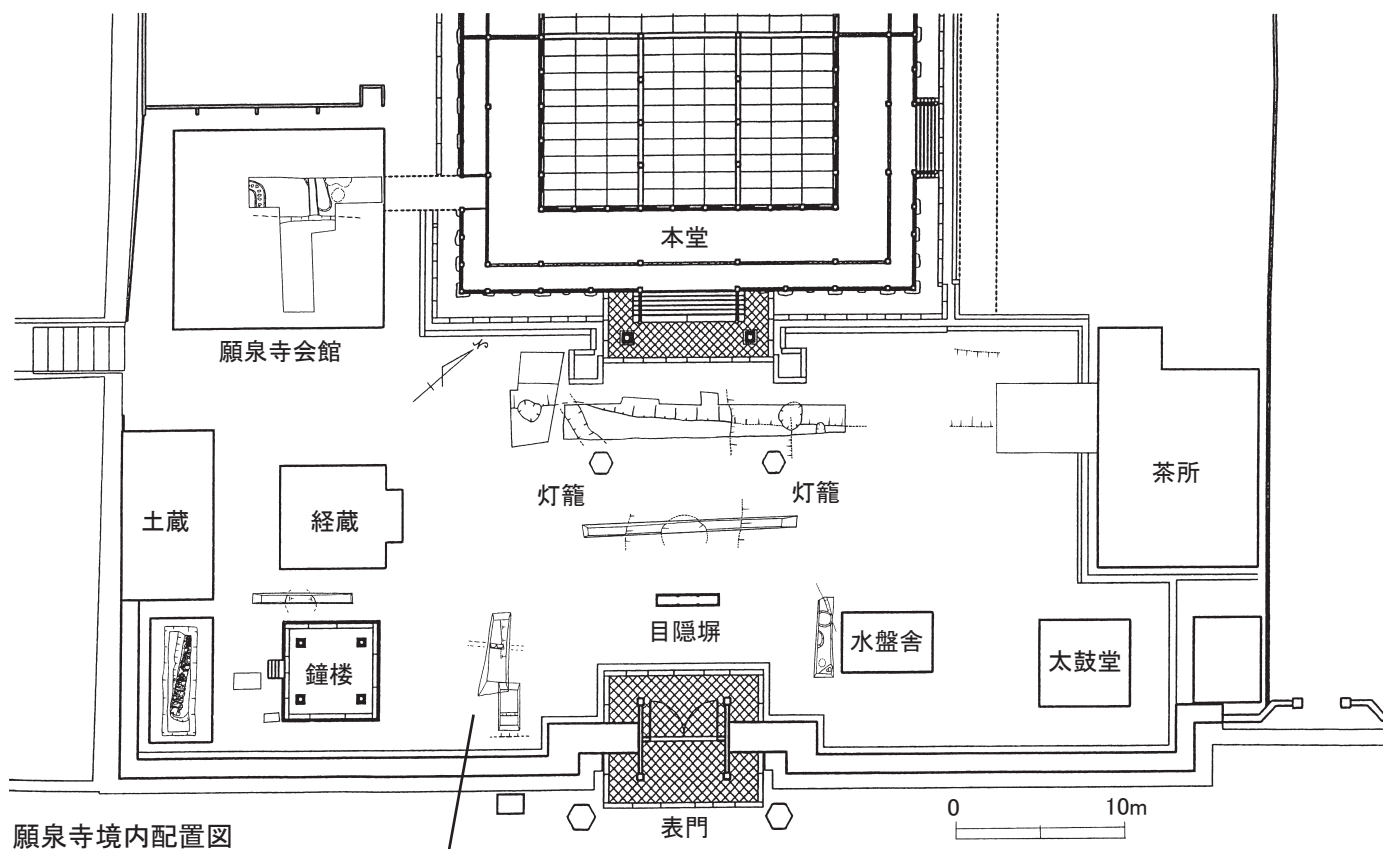


▲堀内から出土した瓦(願泉寺境内の発掘調査)▲

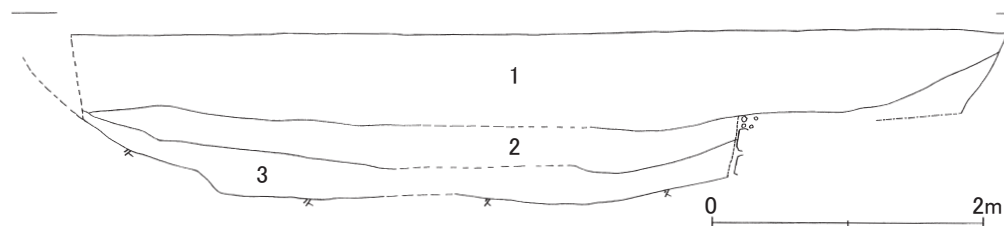
遺跡名	調査 件数	調査面積 (m ²)	遺跡名	調査 件数	調査面積 (m ²)
貝塚寺内町遺跡	2	5.250	新井ノ池遺跡	1	12.500
加治・神前・畠中遺跡	3	8.535	新井・鳥羽遺跡	1	4.500
王子遺跡	1	67.750	新井・鳥羽北遺跡	1	4.200
王子遺跡・地藏堂遺跡	1	25.000	海塚遺跡	1	3.600
明楽寺跡	1	36.140	小瀬五所山遺跡	2	39.36
澱池遺跡	1	3.750	遺跡外	6	30.600
合 計				21	241.185

願泉寺境内の発掘調査

平成 22 年 12 月に重要文化財の本堂他の修理が終了し、平成 22 年度に引き続き境内の発掘調査を行いました。調査は、境内に 5 カ所の調査区を設定して行いました。調査の結果、昨年度に確認した堀(濠)とちがう方向の堀を 1 条発見しました。推定幅 5.4 m (約 3 間)、深さ約 2 m で本堂側からは 2 段の石組みが造られていました。堀内からは 16 世紀後半と考えられる瓦などが数点 (6 ページ写真) 出土しています。今回発見した堀は、平成 22 年度で発見した堀と方向がちがい、貝塚寺内町最古の絵図 (慶安の絵図、慶安元年 1648 年) にも記されていないことから、慶安の絵図以前に、本堂の周りに何度か堀を掘削していたことが明らかとなりました。また、堀の方向は現在の願泉寺の境内の区画や道路街区とは異なり、貝塚寺内町の区画が整備される以前の状況を示すもので、境内だけでなく寺内町のなりたちを見直す手がかりとなる発見となりました。



願泉寺境内配置図



- 1: 盛土
- 2: 堀の埋め戻し土
- 3: 堀埋土



発見された 2 段の石組み

文化財防火デー消防訓練

文化財防火デーは、昭和24年1月26日、奈良県の法隆寺金堂から出火し、国宝の十二面壁画の大半を焼損したことを契機に、昭和30年から1月26日と定められました。この日を中心として貴重な文化財を火災・震災などから守るため、全国的に文化財防火運動を実施しています。

貝塚市では、毎年この時期に国宝観音堂（釘無堂）のある孝恩寺や、重要文化財建造物のある願泉寺で防火訓練を行い、広域的な住民の文化財に対する防火・防災意識の高揚に努めてきました。

本年は1月22日（日）に願泉寺において、第58回文化財防火デー防火訓練を実施しました。願泉寺は平成16年から7ヵ年の修理を終え、8年ぶりの防火訓練となりました。本堂は寛文3年（1663年）に建てられ、約350年の歳月を守り伝えられてきています。訓練では、寺院関係者や消防本部、地元消防団などが一丸となって消火活動にあたりました。



本堂側面からの放水



かいづか文化財だよりテンプス 48号

平成24年2月29日発行

貝塚市教育委員会

〒597-8585 貝塚市畠中1丁目17-1

Tel (072) 433-7126 Fax (072) 433-7107

Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp

印刷：(株)帯谷印刷所

※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。

年4回発行：各1,000部

印刷単価：37.80円

広告募集中

50mm × 80mm（最終ページ） 1枠

50mm × 175mm（2～7ページ） 6枠

詳しくは社会教育課文化財担当までお問合せください。

